

「学の実化」の理念のもと、グローバル化に対応できる人材を育成

関西大学学長 楠見 晴重氏

関西初の法律学校として 一八八六年に大阪で誕生

本誌 関西大学の前身は関西初の法律学校で、一二六年の歴史を有していますね。

楠見 本学の前身は、フランス人法学者ポアソナードの教えをうけた井上操、小倉久、堀田正忠らの司法官と自由民権運動家の吉田一士などが、時の大阪控訴院長、児島惟謙氏の支援を得て、一八八六（明治一九）年に大阪市西区京町堀の願宗寺に設立した関西初の法律学校です。この関西法律学校は、その後一九二二年に大阪府吹田市の千里山に学舎を新設し、法学部と商学部の一学部を持つ大学として認可されました。そして、第二次大戦後の一九四八年に法、文、経済、商の四学部を有する男女共学の新制大学に転換し、現在では法、文、経済、商、社会、政策創造、外国語、人間健康、総合情報、社会安全、システム理工、環境都市工、化学生命工の一三学部に加え、一二研究科の大学院と法科、会計、臨床心理の三専門職大学院を擁する総合大学に発展しています。また、学園全体では高等学校三校、中

学校三校、さらに小学校と幼稚園を擁する一大総合学園に成長し、本学を巣立った校友は四〇万人を超えています。

本誌 学理と実際の調和を説いた「学の実化（じつげ）」を学是に掲げていますが。

楠見 本学は現職の裁判官、検察官などが指導者となり、法律学校として誕生したことから、「正義を権力より護れ」を建学の精神とし、学是である「学の実化」にもとづいた教育を展開しています。学是「学の実化」は、本学が一九二二年に大学として認可された時に総理事兼学長となった山岡順太郎先生が新しい大学の理念として提唱したもので、山岡先生は学理と実際の調和による実学重視の教育だけでなく、国際的精神の涵養、外国語学習の必要性、体育の奨励も説いています。現代は当時よりさらに国際化が進んでおり、本学ではこの「学の実化」の理念のもと、グローバル化、ボーダレス化に対応できる人材の育成を図っています。

見つめ、変化に挑む。「考動」する関大人が世界を拓く。』を掲げ、それを支える柱となるビジョン五項目を策定、現実をしっかりと直視し、さまざまな事態にすばやく対応できる学生の養成を進めています。

アジア・太平洋地域のハブ大学を目指す

本誌 アジア・太平洋地域のハブ大学を目指していますが。

楠見 二二世紀は経済的にも文化的にも世界を牽引するのはアジアです。また、大阪はアジアとの結びつきが強い地域で、当面はアジアを中心に本学のグローバル化を進めなければと考え、学長就任以来、本学をアジア・太平洋地域のハブ大学として機能させることを目指してきました。このため、二〇一〇年度に新たな国際化構想を策定し、東アジア全体を多様な文化接触の連鎖として認識する視座を養うことを目的に、大学院に東アジア文化研究科を新設し、二〇一一年度にはインドネシア・ガジャマダ大学、韓国・又松大学、台湾・台湾師範大学などアジアの大学と学術交流協定を締結しました。また、日本国内でも全国各地の自治体



楠見晴重（くすみ・はるしげ）氏

1953年7月生まれ。1978年・関西大学工学部卒業。1980年・同大学院工学研究科博士課程前期課程修了。1981年・同博士課程後期課程中途退学。専攻・土木工学1982年・関西大学工学部助手。1987年・同専任講師。1990年・同助教授。2002年・同教授。2007年・同環境都市工学部教授。2008年・同大学院理工学研究科長、学校法人関西大学理事。2009年10月・関西大学学長に就任。工学博士。（公益社団法人）土木学会フェロー。教育理念「学の実化（じつげ）」。法学部、文学部、経済学部、商学部、社会学部、政策創造学部、外国語学部、人間健康学部、総合情報学部、社会安全学部、システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部。学生数・28,071名（2012.5.1現在）。

や団体、企業などと連携協定を締結し、国内のハブ大学として機能させることも目指しています。

本誌 国際感覚に優れた学生の養成に向け、留学など異文化との交流拡大に取り組んでいますね。

楠見 現在、国境を越えた企業活動は当然の時代となっており、日本企業も国籍や人種にこだわらず、才能豊かな人材を集めています。英語や中国語をはじめとして、さまざまな言葉を身につけ、文化を異にした人とのコミュニケーションができる人材の育成は急務で、学生にとっても異文化を体験することは極めて重要

です。本学では学生交換協定を結んでいる世界六五大学に学内の選考を経て一年または一学期間留学する交

換派遣留学や、留学先大学を自ら選定し所属の学部または研究科の承認を得て行う認定留学をはじめ、台湾・

静宜大学での特別留学プログラム、米国・ウェブスター大学とのDDプログラムなど多彩な留学プログラムを学生に提供しています。また、留学へのファーストステップとして、夏休みと春休みの期間中に世界の各地で三、四週間の短期留学型現地学習である海外語学セミナーも行っています。

今年四月に留学生別科を南千里国際プラザに設置

本誌 今年四月に留学生別科（日本語・日本文化教育プログラム進学コース）をスタートしましたが。

楠見 国際化構想の一環として千里山キャンパスからほど近い場所に南千里国際プラザと南千里国際留学生寮を開設し、南千里国際プラザに留学生別科を設置しました。この別科は本学の学部または大学院への進学を希望する外国人に対し、日本語、日本事情、日本文化や留学生試験対策などを教授することを目的として

おり、日本人学生と留学生とが共に暮らし、共に学ぶことを通じて、大学内で異文化交流を行いながら国際理解を深める教育プログラムなどを展開しています。留学生が日本で修学するにあたって、一層の成果が得られる仕組であると同時に、本学の一般学生にとっても、留学生との交流を通じ、グローバルな視点を養うことができます。

本誌 今年四月には、大学院社会安全研究科に博士課程後期課程を開設しましたが。

楠見 同研究科では自然災害などに対する減災・防災に関する高度な教育、研究を行い、我が国の防災減災のフロントランナーとして活躍する人材の育成を目指しています。現在はほぼ大学全入時代といわれ、大学運営が厳しくなっていますが、激動する社会に挑み、自ら考えることを身につけ、考えたことを自ら行動に移すことができる、そういう行動力を備えた人材を育成することが本学の使命であり、そのために、今後さらにこうした大学院の充実を図るとともに、教育と研究の質の向上を継続的に推し進めていきます。